MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 82（年４回発行）

■発行日　平成29年１月１日
■発　行　三春まちづくり協会
■編　集　三春まちづくり協会広報部会
三春町大字貝山字泉沢100－１（旧若駒寮）
TEL／FAX（62）3988

「出前懇談会」&「町民と議会との意見交換会」の開催

十一月九日、三春交流館に於いて「出前懇談会」&「町民と議会との意見交換会」が開催されました。この懇談会は、昨年までは秋に開催していました「まちづくり懇談会」に代わるものとして開催され、出前懇談会では「三春町の災害対策、地域防災計画について」、議会議員との意見交換会では「公共施設の整備について」をテーマとして懇談会が実施されました。

▽幕田協会長あいさつ

今回は出前懇談会と町民と議会との意見交換会を二つに分けて行う新しい試みとして行いますのでよろしくお願いいたします。

▽佐久間総務課長あいさつ

町事業に対してのご協力にお礼を申し上げます。本日は、「町の防災対策について」というテーマを頂いておりますので皆さんと一緒に理解を深めたいと考えてございますのでよろしくお願いいたします。

▽佐藤副議長あいさつ

議会は執行側ではないので、こうしますと言えませんが皆さんの意見を議会の中で議論し要望・要請をしていきたいと思います。今回は各常任委員会から代表の議員が出席いたしております。短い時間ではありますがよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

三春まちづくり協会長　幕田勝寿

新年あけましておめでとうございます

今年もよろしくお願い申し上げます。

平成二十八年も、各部会長さんにありがとうございました。引き続きよろしくお願い申し上げます。今年度は時間が少なかったと思いますが、「出前懇談会」「町民と議会との意見交換会」と二本立ての開催になりました。出前懇談会は、町の「災害対策」「地域防災」並びに「公共施設の整備」等話し合いをいたしました。

三春町でも、桜川改修工事がほぼ完成し、ヨークベニマルが中町に移転し、市街地構造の変化による、まちづくりと災害克服による安全、安心のまちづくりに向けた年でもあると思われます。三春まちづくり協会としても協働のまちづくりに向け頑張ってまいりますので、宜しくお願いいたします。

年頭にあたり、皆様のご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

「出前懇談会」

テーマ

「三春町の災害対策、地域防災計画について」

◆町役場から配布資料（三春町の災害対策、地域防災計画について）の説明がありました。説明のあった項目は次の通りです。

①災害の現状・課題について

②町の災害対策への取り組みについて

③地域防災計画について

・計画作成の目的
・職員等の動員配備
・避難計画（災害時の避難所開設について）
・避難対策
・災害時要支援者支援対策
・自主防災組織の整備

④避難勧告等の判断基準について

・土砂災害に関する避難勧告等の判断基準

⑤災害危険個所について

・土砂災害危険個所詳細図
・避難場所等一覧

◆各地区からの事前質問事項と回答

①桜川の清掃美化について

・河川の清掃等につきましては従来どおり、地区の皆さんにお世話になりたい。又、中断していた河川クリーンアップ作戦は来年度より再開いたします。

②空き家の除染の状況と今後の取り組みについて

・町全域において町道等とともに十二月中旬完了目指し施工中です。

③中町公民館駐車場の舗装計画はあるのか。その他の活用について

・時期は未定ですが舗装を計画しています。又、これまでどおり地区のイベント広場として中心市街地の賑わいを創出できる空間として活用していきます。

④駅前から担橋にわたる歩道のラバーのはがれの補修について

・福島県に要望いたします。

⑤八島川改修工事の早期実施について

・県が詳細設計の測量調査を実施しており、町でも早期効果実現のため引き続き県に要望してまいります。

⑥旧三春中の解体後の活用計画はあるのか

・校舎解体跡地は、体育館利用者の駐車場として活用し、グランドは多目的広場としての利用を考えています。将来は総合的な子育て支援施設として整備を図ることを想定しています。

⑦高齢化社会に向い地区内の除雪、除草が課題である。今後の具体的計画、方向性について

・除雪については十五㎝以上の路上積雪で除雪いたします。町道の除草については地区道路愛護会等にお世話になりたいと考えております。空き家・空き地については所有者へ適正な管理をお願いすることといたします。

⑧地区内の桜の木が道路に被さっており台風や大雪等で倒木や枝折れが懸念される

・車の通行に支障のある部分については、適宜枝払い等を実施してまいります。

◆懇談会の主な意見、質問と回答

「避難場所一覧の集会所の欄に記載されている電話番号は何か」

・過去に使われていた番号です。現在設置されていませんので修正訂正いたします。

「災害時の避難所開設時の連絡体制を事前に周知しておいてはどうか」

・代表区長さんが関係個所と連絡（携帯番号等で）が出来るような体制を検討します。

「まほらが避難場所になっているが夜間等、閉館時は誰が開けてくれるのか」

・連絡により町職員が出向いて開けます。

「自主避難者は食料・防寒対策など自分で準備しなければならないのか」

・基本的には自己責任でお願いしますが、状況に合わせて対応したいと思います。

「桜川沿いは、急傾斜が多いが大雨時がけ崩れにより堰き止められた場合洪水が心配」

・急傾斜地についても安全ということで設計され擁護壁等を含めて完了していますが雨量五〇㎜以内を想定しておりこれを超えると水が溢れる可能性はあります。

「エリアメールの受信範囲はどこまで」

・そのエリア内にいる携帯電話所有者全員に対して一斉にメールにより周知するものです。

「議会との意見交換会」

意見交換会に先立ち議会事務局より配布資料について説明がありました。

■議会からの配布資料

①役場庁舎及び周辺関連公共施設に関する検討の趣旨

・町の公共施設については役場庁舎の老朽化と耐震不足による建て替え、併せて周辺関連施設（中央児童館、町民図書館、旧三春中学校）の利活用と整備方針の決定が喫緊の課題となっています。

②議会としての公共施設整備の基本的な考え方

・背景と目的、現状と課題、基本方針
・三春らしい町並み景観
・公共施設全体の配置計画
・来町者に配慮した駐車場
・建設費の削減　等々

■主な意見、質問と回答

「最近子供のための施設がゼロ歳から十八歳を想定して作られてきているので、三春でもそういう発想で今後施設を考えてほしい」

・包括子育て支援センターというのを町として設けていただきたいと思います。また、母子手帳をもらった時点からその状況にあった支援ができるような体制になればとも思います。

「町民図書館、児童館の賃借料は何年過ぎてもこの金額なのか」

・賃料は交渉次第と思うが賃料は高額なので早く建設出来るよう役場庁舎を含めて検討していきます。

協会活動だより

全体事業

「視察研修」

小山美智子さん

年度計画の研修旅行は平成二十八年十月十一日「米沢方面」で、協会長をはじめ二十三名が参加した。研修先は①上杉城址（上杉神社・米沢市上杉博物館）②米織観光センター③亀岡文殊④高畠ワイナリーで、米沢の歴史と現代の産業を見聞した。ラッキーなことに博物館では、国宝「上杉本洛中洛外図屏風」（狩野永徳筆）の原本展示中であった。十六世紀、織田信長から上杉謙信に贈られた名品は、その後何世紀も経て今も美しかった。幾度もの災害や飢饉で困窮を極めた上杉藩と、明治以降の上杉家が、「屏風」を守り抜いたことに感動した。また、博物館に併設の文化ホールがユニークである。同じステージを三部門で使い分ける①コンサートホール②劇場③能楽堂。ホール入口のエントランスには、正式な能舞台が鎮座しているのが不思議だった。説明を聞いてびっくり！大きな舞台は、ホバークラフトにより、震動もなくゆるゆるとホールの中へ移動するという、史上初のものである。文化ショックを受けた。米沢の文化芸術の豊かさ奥深さは、圧倒的である。日本三文殊の「亀岡文殊」は、受験生の参詣で人気だが、わが子の時代もＰＴＡの仲間とお参りをした。米沢織りや高畠ワイナリーには新しい商品も並んでいた。地域の産物を眺めたり、お土産に選んだりと楽しんだ。天気に恵まれ、一同和気あいあいで、私には今年一番の有意義な旅だった。

お城山アジサイの植栽地手入れ作業

十一月十二日（土）城山公園のアジサイ植栽地の草刈りなどの手入れ作業を行いました。アジサイの手入れは毎年、春と秋に行われており秋は、三春まちづくり協会だけで行なっています。来年もきれいな花が咲くことを願い、枯れた花などを切り取っていただきました。来年の花の盛りには、きれいに咲いたアジサイの小道を是非、散策してみては如何でしょうか。

部会だより

「生涯学習講演会に出席して」

荒町方部　田部　洋靖さん

九月七日、光善寺住職井上広志様を講師に迎え光善寺本堂にて「身近な仏教用語」と題されたご講演をいただきました。寺とは心の修業の場である故、山門で一礼、本堂に入る時に一礼することが作法であることを話されてから御講話にはいられました。まず、六輝（六曜）という、先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口や三隣亡というものは、江戸後期に歴注で扱われているもので、仏教界ではないと言うことを話されました。次に、普段使っている仏教言葉について正しく理解して使うことを勧められました。「いただきます」「有難う」「安心」「方便」「他力本願」「愛嬌」などの言葉の語源と真の意味について詳しく説明を受けました。最後に、「我々の生活の中で、自分の好きな想いで幸せな姿を見せてあげる事が先祖への供養である。」と話され、共鳴を覚えました。

「環境創造センター視察研修」

環境部会　鈴木　美代さん

環境部会は平成二十八年度の事業の一つとして環境創造センターを視察研修して来ました。

本施設は、美しい福島の環境の回復、創造に向け、より安心して快適に暮らせる「ふくしま」にするために取り組みを行っているというお話をお聞きしました。私たちが研修させていただいた交流棟では、福島第一原子力発電所の当時の様子を知ることが出来る模型、除染の状況、過去の放射線量と現在の状況を比較することが出来る展示物などがあり、また、原発事故からのふくしまの歩みや福島の環境の「いま」を数字や図表等でわかりやすく展示されており、さらに参加型の体験スペースなども多く、小学生にも興味をもって学べるよう工夫されております。私は今まで漠然とした放射線に対する不安を抱いていましたが本施設を見学しまして放射線について正しく理解し、未来を担う子供たちのためにも、より良い環境づくりについて考えていくことが大切だと感じました。誰もが楽しめ、学ぶことができる施設です。まだ見学されていない方は、一度見学されることをお薦めいたします。

「誤嚥性肺炎の予防と対策」

福祉部会　郡司　光夫さん

十一月八日の午後から福祉部会活動の一環として、三春町保健センターの研修室にて、「誤嚥性肺炎の予防と対策」を受講しました。講師の方は三春病院勤務で、言語聴覚士の資格をお持ちになっておられる、會田梨恵氏のお話を聞いてまいりました。まず初めに、誤嚥性肺炎とは、誤嚥によって細菌が唾液や胃液とともに肺に流れ込んで起きる肺炎のことでした。次に、誤嚥とは、嚥下が正しく働かず、食べ物や飲み物と唾液や胃液が誤って気管や気管支内に入ってしまう事でした。難しい言葉ではあるが、嚥下とは飲み込むこと。すなわち、食物を口から胃袋へ送り込むことであるとの事です。誤嚥を疑う症状は、むせや咳・痰の量と性質・咽頭違和感・食物残留間・咽頭期障害・声の変化・食欲低下・食事内容の変化・食事時間の変化・食べ方の変化・食事中の疲労・やせ・体重の変化等があるそうです。誤嚥性肺炎を防ぐには、口腔機能を清潔に保つことは勿論、肺炎にならない体力づくり（しっかりと栄養を摂る）が大事であることでした。受講の最後には、よく噛んで美味しく食べられるように、かみかみ体操を全員でトレーニングしました。我々団塊の世代で育った多くの人々はこれから先、高齢化社会の仲間入りが近くなっていますので、いつも口の中を清潔に保ち、飲み込む力をつけることを意識し、誤嚥性肺炎にならないように予防したいと思いました。

「通学路放射線量の測定を実施」

環境部会　長谷川良一さん

東日本大地震による東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生してから五年が経過し、三春町内の除染が進み平成二十八年七月末現在で八幡町、荒町、北町、八島台の四地区の住宅除染、町道除染が完了いたしました。三春まちづくり協会環境部会では、今年度も前年度からの継続事業として町内七地区の通学路の放射線量測定を実施しました。今回は四地区が除染完了後の初めての調査でありました。放射線量測定地点（七十ヶ所）、測定期間（八月十五日～九月二十日）及び地上一メートルの空間測定は前年と同じです。

測定結果を見ますと、測定七十地点で基準値の〇・二三マイクロシーベルトを超えているところはありませんでした。最高値は〇・一八マイクロシーベルト、最低値は〇・〇八マイクロシーベルトで前年と比較して数値が低くなっている地点は五〇ヶ所、同じ地点は十三ヶ所、高くなっているのは七地点となっていました。数値が高くなっている地点には除染が完了した北町地区の二地点もありました。また、測定結果報告会では、同時に通学路脇の草むらを測ったところ測定地点より高かったという発表がありました。

環境部会では八月二十三日に環境創造センターの視察研修を行いました。交流棟の放射線ラボでは北は札幌から南は北九州まで全国主要都市数ヶ所の放射線量が示されており、その数値は〇・〇三～〇・〇六マイクロシーベルトの範囲でありました。通学放射線量が全国レベルの水準まで低くなるのはどの位の時間がかかるのだろうかと思ったところです。

町内七地区の通学路放射線量の測定値につきましては、「一覧表」と「グラフ」で表し一月に地区隣組を通して回覧によりお知らせいたします。

編集後記

以前、息子が学校から「よい子が育つユニバーサルデザインの家庭づくり」というポスターを持ち帰ってきた。家庭の目につくところに貼って実践してほしいとあった▼さて、ユニバーサルデザインとは？見当つかず、調べてみると「老若男女といった差異、障がい、能力の如何を問わず利用できるデザインのこと」とあった▼障がい者だったロナルド・メイス氏が、バリアフリー対応設備の「障がい者だけの特別扱い」に嫌気がさし、最初から多くの人に使いやすいものを作る設計手法として発明されたそうだ。ポスターにも「ユニバーサルデザインとはみんなにやさしいということです」と書かれていた▼子供たちは、学校で一人一人の個性を大切にし、互いの良いところを認め合い、個々の違いは受け入れ、特別視せず、困っている人がいたら助け合うことを学んでいるのであろう。そしてそれを当たり前の事として受け入れているのだろう。心の育成が学校、家庭へ広がっている▼施設がどんなに整備されたとしても、それを提供する人の心の優しさや、思いやりがなければ本当の意味でのユニバーサルデザインにはならない。今後、学校だけにとどまらず町全体に広がり、誰もが住みよい町になることを期待してやまない。

（吉田浩之）

コミュニティだより
「三春わが街」第八十二号
発行日　平成二十九年一月一日
発　行　三春まちづくり協会
編　集　三春まちづくり協会
広　報　部　会
三春町大字貝山字泉沢一〇〇一
（六二一）三九八八